





紀元後威之道別居ありてある事所を旧説に後威を
可畏之謂也公重を重路に畏るべきの道と解あり
轉此後もつある事所を今も伊豆國の
河原をフナツキ航しオシエラのいそを居を以て航するをて是公重
を色挑き出つと云ひつゝ一の航する一は我國の文
の辨るる一上世以来我國の船舶ついで伊豆國より
送り及ぶる一これ伊豆國より一由來の久しき
事なるも是を知らず 崇徳天皇十四年伊豆國より大船
國中勅して船舶を送りし事知らず皇平代に記する事
應永天皇五年伊豆國より科せし事知らず長十丈なる事
志せし事知らず中世の洋へ又事集小大伴宿禰家持の
船伊豆國より伊豆國より一伊豆國より一伊豆國より
船より出づる事又伊豆國より伊豆國より走湯の舟は
とありし事伊豆國より走湯の舟をいつる事

わうとヤ次也のまぶそ激と云ふ事ありて是
古より其翻きしと云う証する事ありし事あり
そ我知るる事ありし事あり 今も上洛此舟は伊豆國
吉野ありて大船と云ふ事あり伊豆國の社あり
の社社ありし事ありし事あり伊豆國の社ありし
徳倉の代に二而船はありし事あり伊豆國の社ありし
船根の社ありて天啓船はありし事あり伊豆國の社ありし
て浮橋いそ義前と云う事あり宇岐士摩理之稱理あり
勘成の旧事記に申れ申に立於浮橋在平處と云ふ事
れ清と云ふ事あり伊豆國の社ありし事あり志しし事あり
是れ伊豆國の社ありし事あり伊豆國の社ありし事あり
し事あり 轉此古事記より一河原を洲に
と云ふ事ありし事あり伊豆國の社ありし事あり
をいつる事あり 天保橋より伊豆國の社ありし事あり

何れも頭樵之古刀、纂疏より、無首の樵のこゝ
るるを、今身人輩、亦の領此所ありと云ふされし
し、毛、私記より、未詳多し、之の邊、土、天之眞鹿
児矢、亦、その内、吾田、地名、釋曰、本紀、小野、國、今、の
薩摩國、を、少、給、彼國、の、河、多、野、あり、と、亦、又、即、此
也、長、屋、美、穂、の、所、不、地、方、之、交、未、詳、旧、事、紀、に、薩、宗、
之、空、國、次、日、於、兵、見、國、行、去、て、吾、田、に、美、穂、之、所、
和、り、遂、不、長、屋、之、竹、所、不、登、て、之、地、を、巡、覽、す、に、其
地、土、の、所、あり、み、つ、ら、軍、勝、國、勝、長、穂、と、稱、す、其、所、
い、伊、井、海、首、と、子、又、い、増、土、老、翁、と、云、ふ、此、地、に、水、准、
あり、同、の、り、子、長、穂、有、つ、國、と、ま、し、は、む、前、の、國、に
取、捨、を、極、は、勢、勢、初、の、ま、し、と、ま、し、る、を、對、中、す、が、故、に

皇孫純て留り生れを、
脊上、肉、の、む、り、記、あり、後、宗、と、い、ふ、空、國、と、い、ふ、は、
胸、副、國、と、い、ふ、也、其、也、也、と、い、ふ、は、
空、之、空、國、と、い、ふ、也、大、隅、國、と、い、ふ、也、
鳥、田、海、不、嶮、國、と、い、ふ、也、
如、良、と、い、ふ、古、言、の、れ、今、の、れ、
の、名、と、い、ふ、纂、疏、の、事、孫、の、人、民、の、
國、と、い、ふ、長、穂、と、い、ふ、他、の、從、
ら、い、主、他、人、民、尤、不、富、庶、
と、い、ふ、伊、井、海、首、と、い、ふ、
中、か、し、て、
和、小、言、子、孫、と、云、ふ、
の、名、と、い、ふ、國、を、
の、名、と、い、ふ、
と、い、ふ、

名もざりて武ののりまはあはるま多たふまう群
子向いよのいまい新日武判りかまののりまむく又名
の然いこのいまひまふ系國の文辞うらぐて好此他
そ古代々此吾國の代ははゆの古代うらひのいま
底津石根子宮根布斗新理言を系小氷椽多如
理い上世の候ふ言書うらひの河い
古語い小汗止保企い事ゆゆる底津石根正長武親河
今の手解のこころいこころま
ゆい小津石根もをこころゆいこころ國うらひ代椽先
ふふの河い宮根い高島道うらひ河椽布斗志利い
布斗大也志利い知こ古教馬屋妻三うらひい
言を系い高うらひい志うらひいを椽うらひの河うら
氷椽い流で以録ふふすねはうらひ又博風氷本

此字を毛能月也事本侍し聖典上る上世高島制
うらひ即今と神はふいそ造制あうらひも也新理い高島
い言の勘理い知うらひ言の標のの河いすしてこふを
し高島とは肉のれい惟王建國辨方定位うらひ
のこころ好うらひ
周禮うらひい四方を別つていりある
影い入り系い代流畫い日中の系を参り椽
こ水も椽も考うらひを四方を別つていりある
正徳い高島胡庭い位を定むるうらひ
初者火障の科言を傳うらひまふいする所小天之八衛中居
て言を系上光うらひ系系中國ふ下起り神あり天也夫非
言も非の命うらひ天細女非い手弱女うらひも伊年也布
非い而後非い專い女姓て誰うらひを名なる能を同い
しと引ひつるはうらひに彼非也て系い國非名も椽
古非也初るうらひ天非い河うらひを傳うらひもをすて河

天^ニ雅^ク天^ノ志^ヲ為^ス思^フ天^ノ之^ノ羽^ヲ先^ニを^レ揚^リてつ^ニた^リ
 以^テ不^レ言^フ其^ノ難^ヲをつ^クは^レた^リ況^ニ不^レ難^ク海^ヲを^レ東^ニ流^ス其^ノの^ノ津^ヲ
 を^レつ^クは^レた^リは^レく^ニそ^ノ國^ヲを^レ播^キひ^テす^レけ^レ一^ニせ^ラる^ニ此^ノ三^ノ邦^ヲ
 大^ニ國^ヲ主^ト邦^ノ子^ヲ事^ト代^ト主^ト邦^ノを^レ乞^フ趣^キ一^ニ健^ニ河^ノ方^ヲ邦^ヲ
 を^レ進^セせ^レつ^ニの^ニ大^ニ國^ヲ主^ト邦^ノ之^ノ國^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲ
 代^ト主^ト邦^ノ之^ノ邦^ノを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲ
 日^ノ隅^ニ宮^ヲ造^リて^レ以^テ事^ヲ爲^ス又^レ河^ノ方^ヲを^レ以^テ大^ニ物^ヲ主^ト
 子^ノ所^ニの^ニひ^ク不^レく^ニ我^ノ河^ノ子^ノの^ノを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲ
 を^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲ
 考^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲ
 考^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲ

天^ノ志^ヲ為^ス思^フ
 天^ノ之^ノ羽^ヲ先^ニを^レ揚^リ
 以^テ不^レ言^フ其^ノ難^ヲ
 つ^クは^レた^リ況^ニ不^レ難^ク
 海^ヲを^レ東^ニ流^ス
 其^ノの^ノ津^ヲ
 を^レつ^クは^レた^リ
 は^レく^ニそ^ノ國^ヲ
 を^レ播^キひ^テす^レけ^レ
 一^ニせ^ラる^ニ此^ノ三^ノ邦^ヲ
 大^ニ國^ヲ主^ト邦^ノ子^ヲ事^ト代^ト主^ト邦^ノを^レ乞^フ趣^キ
 一^ニ健^ニ河^ノ方^ヲ邦^ヲ
 を^レ進^セせ^レつ^ニの^ニ大^ニ國^ヲ主^ト邦^ノ之^ノ國^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲ
 代^ト主^ト邦^ノ之^ノ邦^ノを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲ
 日^ノ隅^ニ宮^ヲ造^リて^レ以^テ事^ヲ爲^ス又^レ河^ノ方^ヲを^レ以^テ大^ニ物^ヲ主^ト
 子^ノ所^ニの^ニひ^ク不^レく^ニ我^ノ河^ノ子^ノの^ノを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲ
 を^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲ
 考^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲ
 考^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲ

には皇孫を以て河^ノ方^ヲ代^テて^レ降^ルの^ノ事^ヲ皇孫^ノ
 天津^ノ河^ノ祖^ノ言^ハ依^リの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲ
 降^ルの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲ
 生^レて^レ終^ルる^ニ國^ノ邦^ノの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲ
 宮^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲ
 つ^クは^レた^リの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲ
 中國^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲ
 の^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲ
 田^ノ祖^ノ言^ハ依^リの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲ
 子^ノ所^ニの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲの^ノ事^ヲ
 果^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲを^レ進^セる^ニ事^ヲ

海を渡る一と名づく一船ものゝ海に舟を渡す

海記書也

新大津の松平大津海江舟の女木氏之依久根比賣を妃
として火照命火海理命火志理命三柱の日子神孫生
まらん火志理命にて海に言ふ言ふかえりて中より母
又永命火進命火折命火志理命かえりて四柱の神
子生らん又火破命火志理命かえりて二柱の神子
生らんやいし新大津の松平氏をいふに
筑紫日向守能く山陵小葬命の御孫に
皇孫の神子生れぬり事旧事古事等の記より
初皇孫海江の御孫をいふに時事海國長根
そは海に起る浪穂とよみ入る海を起りて海に

海に織任の少女の誰の女子耶と同流り大津津
兄舟の女木氏を長比賣をいふに依久根比賣
又神何多根比賣とよみいふに父神
凡遣され大津津に二女をいふに百前根代
を指さくをいふに依久根比賣をいふに
是より長比賣と依久根比賣をいふに
其父の舟長比賣をいふに舟をいふに
女二人舟をいふに舟神子の御孫をいふに
も根比賣のそとて常事根比賣をいふに
死に常事根比賣をいふに常事根比賣をいふに
しるをいふに常事根比賣をいふに
此書と名づくの舟神子の御孫をいふに

を以て塗塞して時不修みて之を火つて存す
 之初子生れし時河子の名火照命次不生れし時河子
 の名火照命次不生れし時河子の名火照命次不
 命又いて河日言言火照命次不生れし時河子の名火照命次不
 の河子火も寧ふとあるは母もまたあし損ふ所
 一 アラヒヒ 時不修みて其の臍を截るを棄竹刀修ふ
 竹不修りて其の臍を截りて竹を以て足らざる
 無戸の積で宇於とあるは河子火照命次不生れし時河子の名火照命次不
 時不修みて其の臍を截るを棄竹刀修ふ竹不修りて其の臍を截りて竹を以て足らざる
 無戸の積で宇於とあるは河子火照命次不生れし時河子の名火照命次不
 時不修みて其の臍を截るを棄竹刀修ふ竹不修りて其の臍を截りて竹を以て足らざる
 無戸の積で宇於とあるは河子火照命次不生れし時河子の名火照命次不

命次不生れし時河子の名火照命次不
 命又いて河日言言火照命次不生れし時河子の名火照命次不
 の河子火も寧ふとあるは母もまたあし損ふ所
 一 アラヒヒ 時不修みて其の臍を截るを棄竹刀修ふ
 竹不修りて其の臍を截りて竹を以て足らざる
 無戸の積で宇於とあるは河子火照命次不生れし時河子の名火照命次不
 時不修みて其の臍を截るを棄竹刀修ふ竹不修りて其の臍を截りて竹を以て足らざる
 無戸の積で宇於とあるは河子火照命次不生れし時河子の名火照命次不
 時不修みて其の臍を截るを棄竹刀修ふ竹不修りて其の臍を截りて竹を以て足らざる
 無戸の積で宇於とあるは河子火照命次不生れし時河子の名火照命次不

くさる解らるる一 三つを此東の所名ありてその
を罪のんごさ為て舟の沖子一安かりて之程そつ
まれのい一何ふ火の中ま生れおぼくうまご之翻し
盡信はくくあるものなり

旧事記よりいふ伊弉册神火之
事神をまんとしそのくを焼
しり神をまら伊弉册神火之
斬して三を焼く 五のくを
化して三程とてく 九のくを
くを焼く 三のくを 外家の
存るは上吉の候也 武徳と
山陵の可を後で焼くはく
或は日而燒山陵と云ふは
邪信で海乃くく焼くはく

火須理命より山幸をゆるめ山幸彦命と稱は
たれ兄命の風ありてに斬る利をくく好ひ弟命の
風ありては幸多しは試母之幸を相易かに
つわ各之利をゆるくく之幸を返さむと云ふは
てて弟命すく兄命の幸約を海に失のりて兄族を
徹る事急かりて之櫂刀を以て新約を綴り冥子
盛て償ふと云ふは之約を責るは老母之弟命より
憂苦みのあをく海に入て綿は兄命とおろり海
すひの吹ぬやひ之老女のまなく綿は兄命と喜ぶ知りま
す綿は兄命之女也 皇祖賣命に河合をまのせりて
母とすりのあをく三をかりて海に流さんあをく海
海に流そのまのり物をもとくゆるをらん又之を

此のまふわらふくしてくの向國のくの時よりくはく山陵の
合義神母帝王墳墓の山よりくはく山陵のくはく山陵の
火須理命より海幸のゆるめ海幸彦命と稱は

武位起命
タケノコウオキ
其列未詳

鞍少子何らん時母救いませぬ事々をお拘りて道
返し申す又その女の事なく見命つ井小舟に伏し居て
津日言彦波瀲武勢草莽命言しあづけをらん
之海邊の波限小彦彦を道ふそ草莽命言
るらる不坐すそし居て深し瀧海中の置を
すそそそ妹玉備比賣命言して道かきまひせり日王
事りし其らるそ玉備比賣命言し御子を生す武位
起命より大和國志麻の祖より天津日言彦波瀲出見
言半穂彦不御はも御陵に言子穂山乃西あり
る水を日向言屋山上陵とす旧事紀古事記の事
事紀古事記の事火照命火照命の事古事記の事火照命の事
事紀古事記の事古事記の事古事記の事古事記の事
古事記の事古事記の事古事記の事古事記の事

と降りて仕せたりと云ふはこれ真人の祖より
火照命とあるは西の侍鳥の漢水と又その事を易
しるは旧事紀古事記の事古事記の事古事記の事
古事記の事古事記の事古事記の事古事記の事
古事記の事古事記の事古事記の事古事記の事

舊事紀古事記の事古事記の事古事記の事古事記の事
子兄火照命と云海幸を言ひ兄弟火出言言は
く山幸を言ひ兄弟火出言言はく山幸を言ひ兄弟火出言言は
を失ひ弟言ひ兄弟火出言言はく山幸を言ひ兄弟火出言言は
幸を言ひ兄弟火出言言はく山幸を言ひ兄弟火出言言は
穢る不歎之乾迹を言ひ兄弟火出言言はく山幸を言ひ兄弟火出言言は
海より入る物言ひ兄弟火出言言はく山幸を言ひ兄弟火出言言は
手あして毒物言ひ兄弟火出言言はく山幸を言ひ兄弟火出言言は
が海を言ひ兄弟火出言言はく山幸を言ひ兄弟火出言言は

同きり何やしそす好はらみつらり入水海
緬皮八重を捕はてそよ不味しうう儀百札を役て
主人の礼をあらは後家母事し好はら河ぶを同あふ
情之委曲を射らりやは情とあふ白起て逐
丹之女豊王毗賣を河人あまのすそを好はら宮か
る信の小事三年にううう味河路いり中記はら可伶河
于麻師とふしはせらら水お于麻新美知しり可伶河路く
人のうり水おをらり魚橋のこくさる家海井の
宮ををかき水溜り門のあう井り中記一書好井と
されを景跡も玉泉をいあうそえ神代巻抄いも舎とい
了らうう好はらとる河の尻を後あうう白りら湯
津桂樹にあうそう日本記一書百板樹もあうそらう
豊王毗賣のう下にはら侍婢の豊王毗賣小宮はらあう玉
い玉璣も玉璣もあうそらり古りらよいそ侍婢あうそ
水をあうそらり井りあうそらり仰りら美いそ男子あうそ
い信はら河路の標を射しりあ合しりのあうそ入水い
すそ無信はらつましそ好はらうそあうそらりわうて

豊王毗賣命にをらせり父の井か流り中記はらうう日
中記はら豊王毗賣の信り水を汲りそ天孫をえ好はら
そ又ら水おをらり侍婢の足りそそそそそそそそそそ
後そそ長好はらうう好はらうう好はらうう好はらうう好はら
り父の井か名をいあうそらりあうそらり海路八重はら後
かりあうそらり又河井の流り宿席ううあうそらり水溜り
うう儀百札にあうそらり河路加多知り河心の井かあ
うう貌ううう情之委曲はら河路加多知り河心の井かあ
まりをいあうそらり情之委曲はら河路加多知り河心の井かあ
情ふ河心の井かを同くそ大津鯨屋あ儲候あそ
あやうそ古河あ赤女あ口唇河りそ系事はら右記
し記くそれを撰りあ口唇河りを初失りる狗を
川大津制りて御女今うう河路はら係ら
を御女はら口唇河り依河りをそそそそそそそそ
此縁と大津を狗を清流りそあうそあうそ

津の志あるは流いのりおは兄命を仲徳河原の事を
アそつわふゆく休事ふくをりて火須留理命の昔
喬法年人おる今天皇宮牆之侍を離しは吠狗
よ代りてつふまうもの世の人失つる計を信るる
いふは縁也 火須留理命の昔喬法年人おる姓氏縁より此
余の子孫打多しよを年人といふ今の大隅薩
摩おの代よりもの書上して宮中を守護せし年人といふその書
捷のの御書より 守り年人といふは古に氏より後世に官より
宮内省直して御守り又守り又守り御人といひ也初天
孫の傳をまよんとひる付母世に賣法を流い
去すくお娘をうて流り流海原に産まうては
必死なる所許不能に示さるる産命を海邊に遺
ては之をのこすむく河果して前の流のこす
女弟玉依御賣命と在る象お好りす好は共
草草

海邊に流原に移れを草草とて産命を遺り
おのふそ産命の草草とてに河原の意ある
は意にそそ産命を入生とて凡て他國の人に産
す本國に初をくく産む也取くに勿えま
そとのこす御を何やそむりて守り取付る
おの河原の産すは時不産とて流のをそ何えん
しを知りて流く懸帳をうつる河原を抱きて海
郷へ入去流てこの河原の産を初生れをそ時不
産ふあつてはよむ河原に能回いのり
天津の言産流海武藝草草草草
角ののこす御を去すのりま 初産を草
草とて
移りおのこす御を去すのりま 初産を草
草とて
此のこす御を去すのりま 初産を草
草とて

おのれをいひてそまはりしつ子に五津命次子稻飯命
次子三毛野命次子狭野命次子四柱命次子又五
津命次子稻飯命次子若毛命次子又豊
洲毛命次子若毛命次子伊波命次子又五柱命
子何れもす尊不命言子種彦不打はす種
彦まゝ日向國吾平山上陵小苑まゝそ彦五津命素
命おま相議りぬ日向國より筑紫國小郡ま
沙り足一騰宮子おのれ筑紫國田言小遣坐
二年そ好より上幸して河使國多神宮坐し七年
又よ好より上幸して吉備の言得ま不坐し八年そ
國より上りし時浪速に渡を越して青倉より白眉山
とまよりおのれを見り長髓彦軍を起して竹戦ふ

至りて彦五津命河守不坐見彦が痛失事次負ぬひ紀國
男之水門より上りて種彦もた陵にす好より紀國に寛山
よりあり若毛命次子海種不跳りて若世國に渡りま
稻飯命次子海種不跳りて若世國に渡りま
野村より上りぬひ紀國中園子入る不及む初て傳り
また鏡本百高の河屋宇麻志麻治命逐降りて天
津より換賜りぬ日向國天皇瑞宮子を殺して供する
治ぬる不名彦をそりて荒生流津市を撃平けて
大倭國畝火之白檮系宮に坐して天女代治らぬ神倭
磐余彦天皇より後河湓を治るそ種彦も天皇
より好より紀國に上り日本
玉依坂賣命、旧事記古事記、神武天皇

今昔その御ミ姨ハハ王ミ依ヨ咄ト賣ウ命ノ次ニ要スて妃ハハとスるレ事ナり
以テあリてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ女メ弟ト王ミ依ヨ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナり
豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりて妃ハハとスるレ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ
御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ
御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ
御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ
御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ
御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ
御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ
御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ

一取リ不レ上ル古キ朴ハク酒サケとシてシ海ウミ邊ヘ傳ハへテ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ女メ弟ト王ミ
御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ
御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ
御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ
御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ
御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ
御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ
御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ
御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ
御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ御ミ事ナりてスるレ豊トヨ王ミ咄ト賣ウ命ノ

今和泉国に海ありて男之水門と云ひて紀伊國に
地不係水ありて之を富山の津と云ふ式より不紀伊
國名草形不富山津社ありて^{カマヤ}草形を草形草形に
此地之を之と云ふ古より紀伊の津余津去のりて
不不不不不不又津墓を陵と云ふ之事云々不不不
て之を不不不不不不^{稲飯}稲飯余三毛野余の事云々
旧事不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不
に暴風不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不
不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不
沈又余を海に危め流すと云ひて海を抜て海に
流し^{御持}御持不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不
母姨不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不

云むすねを浪花を踏て常世郷に生まらぬや
あるすねと云ふ又上古の海に崩れ不不不不不不不不不不不不不不不不不
すね不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不
云ひて^{稲飯}稲飯不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不
不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不
三毛姓余の浪花を踏て常世國に渡らぬや
也いそ不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不
津のまのり旧去不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不
流す不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不
不不不
り上野下野木の國不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不不
也三毛又云ふ不不不

古古史通五卷以秋夜氣書錄力於揚寬
燈下謄寫焉
宣和癸亥八月望後一日卒業 伴守身

嘉永七年夏五月十三日讀

況齋因奉保孝

Blank page with faint horizontal lines and some dark smudges at the bottom left.

Blank page with faint horizontal lines and some dark smudges at the bottom right.

Small dark smudges or ink marks at the bottom left of the left page.

Small dark mark or character at the bottom center of the left page.

Small dark smudges or ink marks at the bottom right of the right page.

